

興味深い人々がたくさんいます

大臣官房施設課施設設計官 葛原 浩美
(平成2年採用・I種)

私は、変わったものに出会うと、ついそれを選択してしまうという人生を送り続けているように思う。約20年と7ヶ月前、公務員の2次試験にも受かり、ふと目に入ったのが「法務省・機械職」の募集。「法務省で機械職？何、これ？」と、つい電話をかけたのが法務省との縁の始まりであった。

「機械職」というのは、法務省全体の施設整備や維持管理に携わる部署である大臣官房施設課(当時は大臣官房営繕課)の機械設備設計部門(施設の空調設備や給排水衛生設備を計画・設計する部門)への採用で、対象となる法務省の建物といえば、刑務所や少年院や入国管理局の施設など、「他では設計できないよ。」という誘い文句に惹かれ、お世話になることになった。

実は、機械設備畑は1年間だけで、その後は、建築畑(いわゆる皆さんがイメージする建物の計画・設計部門)を歩むことになるわけであるが、そんな施設課での業務は、建物のユーザーである他部局の個性豊かな人々との出会いの連続である。建物を設計するという事は、ユーザーの本音を引き出すことでもあるのだが、その作業はちょっと楽しかったりする。(本当は苦しいけれど(笑))

こんな誘い方は変かも知れないけれど、「ちょっと変わったものの好きの貴女にとって、法務省は期待を裏切らないと思います。」(多分)